

## 議 事 録

- 1 会議名 平成29年度第2回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 日 時 平成29年6月27日（火）13時30分～15時20分
- 3 場 所 さぬき市役所 4階 第2委員会室
- 4 出席者 （ 委員 ）  
 岩田委員 岩村委員 大塚委員 尾崎委員 鈴木委員 多田委員  
 （ 市 ）  
 向井総務部長 総務部政策課 谷課長 大生課長補佐 津村副主幹
- 5 傍 聴 0名
- 6 会議次第 1 開会  
 2 座長挨拶  
 3 議事  
 （1）まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況調査結果について  
 （2）関係部局ヒアリングについて  
 （3）今後のスケジュールについて  
 4 事務連絡  
 5 閉会
- 7 配布資料 ○平成29年度さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況一覧  
 ○さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況一覧（KPI・参考分類別）  
 ○さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況調査結果（基本目標）  
 ○平成29年度さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るヒアリング日程及び会場一覧

### 8 議事の経過及び発言要旨

＜ 開 会 ＞ （ 13：30 ）	
政策課長	<p>＜事務局挨拶＞</p> <p>本日は、大変お忙しい中、第2回目のさぬき市のまち・ひと・しごと創生有識者会議のほうにご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>総務部長よりご挨拶させていただきます。</p>
総務部長	<p>＜挨拶＞</p>
座長	<p>今日は議題が3つあります。まずは、総合戦略の進捗状況調査結果についてですが、資料は、事前に事務局から配布されていると思います。ご覧になられているとは思いますが、ボリュームがあるので事務局から簡単に説明をお願いします。6月23日に開催されましたまち・ひと・しごと創生本部会議についての説明も引き続きお願いします。</p>
事務局	<p>＜説明＞</p>

座長	<p>ありがとうございました。全体的な感想や、7月のヒアリングで行いたい質問なども議論したいところですが、その前に、1つ確認しますが、KPI で今説明した実績値は、H28 年度の実績で、完了見込みの数字ではない、という理解でよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい、かまいません。</p>
座長	<p>第 5 節は、具体的な取組と KPI が書かれていたと思いますが、検証結果に基づいてその内容を見直す、ということよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
座長	<p>では、委員の皆さんからご意見を伺います。</p>
委員	<p>地域循環交付金とか、ものづくり補助金などの支援を国が取り組んでいますので、市の支援に関する取組内容が変わることは理解できます。</p> <p>前回の有識者会議で、総合戦略の取組を進めたり、KPI の目標を達成するために解決しないといけない問題を乗り越えるための助言をすることも、この会議の役割ではないか、と話し合ったと思います。総合戦略の進捗管理だけではなく、定住人口を増やすためには、今の取組を発展させた新たな展開を考えることも必要ではないか、という話もあったかと思います。</p> <p>例えば、今は、さぬき市内に勤める高松市民が、高松市の保育所に入れないので、さぬき市の保育所に入れないかということを検討した場合、入れないのが現状です。東かがわ市とさぬき市は受け入れの連携ができていますが、さぬき市と高松市は連携ができていないから受け入れできない。勤務地よりも居住地が優先される現状だと聞きました。ニーズや需要でいけば、ダントツに、高松市民のほうが保育所に子どもを預けたい人が多いから、勤務地優先にすると、さぬき市民で保育所に預けたい人が預けられないかもしれないということで、高松市とさぬき市は連携ができていないようです。しかし、香川県の人口が減っていく中で、高松市で働いているのに、高松市の施設を使うのはいかん、とか言われたら、行政に何とかしてほしいと思います。行政同士でもっともっと話し合っ、必要に応じて税金も投入してもいいと思います。広域的な待機児童対策に向けて、どんどん提言してほしいと思います。事業所内託児所が一番いいとは思いますが。</p> <p>資料の中に、調査結果を踏まえた KPI の一覧を見たのですが、進んでいないものもありますが、進んでいるものの方が多いと思います。KPI は、あくまで指標。数値にばかりこだわる必要はないと思います。市の職員も含め、みんなで前向きに進んでいることは間違いないと思えます。</p>
委員	<p>小さい子どもを育てているお母さんたちの多くは、医療費にとっても興味があるように思います。高松市だと対象が多すぎて苦しそうですが、合併していない町は、手厚く子どもたちに対してケアをしているようで、お母さんたちは、「やっぱりそういうところはいいわよね」という風に、口コミで話を広めています。さぬき市も、アピール性を高める必要があるように思います。必要にかられると、市役所に行ったり、市の HP を見たりとかして、様々な支援施策を目にしたたり、耳にしたりますが、そうじゃない方々にも届くような広い形で、さぬき市は、子育てとか医療費とか教育に対して手厚い支援をしている、ということをごぼんっと知らせてほしいと思います。</p> <p>それと、平賀源内に関する取組について。最近、JR 志度駅でもクローズアップした取組をやってくださっていますが、志度駅を通るときにしか見ないというのがもったいないと思えてなりません。志度駅の近くに住んでいても、階段を上って、あそこ</p>

	<p>を通らなければ、あの装飾が目に触れることもないし、お団子を売っていらっしゃる懐味奉行の皆さんの活動も、もっともっと知ってもらいたいと思います。取組を世に広げていくアピール方法、例えば、SNS、You tube や踊り、なんでもいいので考えられたらと思います。先ほどの医療費や子育て支援もですが、市の取組をうまく組み合わせるアイデアが必要かもしれません。ふるさと納税の納税額も増えているようですし、全国の中でも名前が知られるようなアピール性を高める取組があれば、そこが突破口になるのではないのでしょうか。</p> <p>今日の新聞に、JR 高徳線に新しい車両の導入と、一番列車に乗るための切符販売に関する記事が載っていました。このような取組と平賀源内をコラボさせるのも面白いかもしれません。私から見れば、さぬき市にはとてもいいものがいっぱいあって、どうにかしてうまく結びつけて発信できれば、さぬき市に実際に行って体験してみたいな、と思う人が増えて、少しずつ移住者も増えるのではないかな、という感じを受けました。</p> <p>H27 年度からスタートしたまち・ひと・しごと総合戦略の取組ですが、効果が出てきたものと、まったく進んでいないものとの差ができてきたように思います。例えば、平賀源内をキーワードにした取組によって、4 つの奉行を作ってまちの活性化が進んだり、ふるさと納税の返礼品を増やすことで、納税額が上がったりしています。こういうことに一生懸命取り組むことで、目に見えて成果が上がってきているように感じます。それに比べて、H29 年の数字で、H27 年、H28 年は低いのに、H29 年でこんなに数字を上げて大丈夫かな、と感じる指標も 5 つくらいありました。その根拠はなんだろうと不思議に思うところもありましたが、がんばればがんばるほどいい結果が出てくることを踏まえた目標だろうと思っています。</p>
委員	
委員	<p>資料 1 の 18 ページにありますトップセールスで、市の農産物、ミニトマトの販売促進とありますが、さぬき市には、ブロッコリーもにんにくもいちごもあると思うんです。毎年、ミニトマトでなくて、この年はこれにしましょう、という風に品目を変えながらトップセールスを行ってほしいと思います。今、ブロッコリーは、すごく生産者が増えています。売れるから増えていると思っていますが、(行政にも) もっともっと力を入れてほしいと思います。</p> <p>それと、オリーブの耕作面積を増やしましょうという目標ですが、なかなか話が進みません。オリーブの木を増やして実を加工する、となると加工施設が必要になるから、そこらあたりがネックになって話が進まないのではないかと、思っています。オリーブは傷みやすいので、ちぎったその日に油を絞ったり、加工しないといけないと聞いたことがあるので、加工施設もあわせて話したり、農地を持っている人も含めてもっと話し合えないと進まないような気がしています。</p>
事務局	<p>オリーブに関してですが、耕作放棄地の活用を検討する中で、オリーブを植えてはどうか、という話が出てきました。現在、担当課からは、オリーブ以外の作物も対象にしながら、遊休農地活用につながる新しい制度を考えている、との報告を受けています。</p> <p>トップセールスに関してですが、ミニトマトだけに絞っている理由を担当課に聞いたところ、状況一覧の 17 ページにも書いていますように、生産者団体等が実施する販売促進活動については、ミニトマト以外の農産物は現時点では計画されていないためミニトマトにしている、ということでした。委員がおっしゃるように、市内には様々な作物がありますので、他の農産物のセールス活動も推進するよう、ヒアリング時に委員からも助言いただければと思います。</p>

委員	<p>基本目標の状況説明の中で、社会動態の人口増減数については 294 人のマイナスであったと思います。移住は 124 人とありましたよね。単純に転出者は 400 人余り、ということでしょうか。それとも、転入と転出の社会動態の人口増減が 294 人のマイナスでしょうか。</p>
事務局	<p>294 人ですが、H28 年度の転入者が 1234 人、転出者が 1528 人、プラスマイナスでマイナス 294 人ということです。</p> <p>124 人は、H28 年度中に県外からさぬき市に移住した方の人数です。ただし、124 人は、市民課の窓口で行っている転入者アンケートで回答いただいた方の中で、移住と捉えられる方、例えば、転勤や進学などを理由としない方の人数です。アンケートを書かなかった方もいらっしゃると思いますので、124 人のみとは限らないと思います。さぬき市からの転出先は、高松市や県内他市町がとても多いのが現状です。</p>
委員	<p>移住を促すための施策は、子育て支援や医療補助、リフォーム支援といったメリットを増やすことが前提にあると思います。今回転出した 1528 人も、仕事で転出したというケースだけではなくて、本当にいろいろなケースがあると思います。</p> <p>(転入者と転出者の) トータルで増えればいいのだから、転入者を増やすための施策に取り組む中で、転出する人が多いという実態を考えれば、転出を止めるというための施策も必要ではないでしょうか。転出届を提出してきたタイミングで、「なぜさぬき市を出るのですか」に答えていただければ、転出を減らす施策を考えられるかもしれないと思います。全く見知らぬ方に得するいい情報を発信して来てもらうことよりは、現状いる人に止まっていただく施策のほうが打ちやすいのではないのでしょうか。どちらかという、前に進むイメージの目標設定が多いと思うのですが、ちょっと視点を変えて現状を把握する取組も必要だと思います。転入に関する取組を頑張った効果も出始めているように思いますので。</p>
委員	<p>水産物の消費拡大に向けた支援に関してですが、海の環境が変わる中で、稚魚の放流がどこまで効果的なのか、疑問があります。</p>
委員	<p>要は、総合戦略ができて 2 年も経過してきている中で、実績値が上がらないことに対して、前向きにもっとこうやります、ということがすべて正解かということ、方向性が間違えているということもあると思います。目標は掲げているわけですから、そこに向かうとしても、アプローチは色々検証される必要があると思います。5 年くらいやってみて成果がでないなら打つ手変えてみるか、と聞かれれば、私は、随時、施策は見直すべきだと思っています。これでもか、これでもかって 5 年やり続けて、やっぱりダメだったか、になっていると予算の無駄遣いになりました、ということにもなりかねないので。だからこそ、7 月のヒアリングでのやりとりが重要になるのではないかと考えています。</p> <p>あと、もう少し、部署管連携というか、業界連携が必要な気がしています。それぞれがそれぞれの目標を達成するための施策に取り組んでいる、ということだと思います。</p> <p>例えば、農業がうんぬんといっても、企業の社員の中にも兼業農家がたくさんいます。農業従事者が高齢化して人手不足の今、企業側でアグリビジネスに意欲を持っているところも結構あるわけです。事業主の立場から言えば、雇用延長によって、60 歳を過ぎた再雇用者にどんな仕事をしてもらうかを考えないといけません。この方々は兼業農家だから、農業に対するスキルがある。そこらあたりがうまく連携すれば、新しいかたちで農業というものを推進できるような気もしています。ですから、農林水産課と商工観光課が連携して新しい取組を検討することが重要ではないか、と思う</p>

	<p>のです。</p> <p>単純に、新しく起業をします、ということへの支援も大事だと思いますが、雇用の受け皿をつくることを重視するのであれば、そのアプローチは色々あってしかるべきでしょう。新しいものばかりを追うとハードルが高くなる。それに、10人起業して何人残れるのか、とか、起業した10人が、何年後に30人、50人の会社に成長するのかということを考えれば、今の事業所の延長線上で新しい職種というか、(今あるものを)生かせるようなものを作り上げて、そこで10人、20人に働いてもらうというほうが話は早いと思います。そういう意味でも、(所属を超えた)連携というのは、当然必要だろうと思います。</p> <p>ヒアリングでは、現状を確認した上で、施策がどうだろう、方向性がどうだろうという話をしながら、1課で取り組むのではなくて、部署連携をすることでどんないい効果が増えそうかを考えながら施策を導き出すことができれば次の展開につながると思います。今、ある程度、結果を出せている取組に関してはそれでいいし、出せていない取組については、他の部署や、同部署間での絡みを作り出して、違う視点で取り組むことが大事だと思います。</p>
委員	<p>都会から来た人間にとっては、心を動かすものは自然だと思います。さぬき市には、自然の美しさを推せるところがいっぱいあるのに、みなさんは、いつも生活しているからなんとも思わないようですね。夕日が海に沈む光景でも心を動かされるので、さぬき市には、テアトロン、平賀源内、海、空、たくさんのキーワードがあると思うので、ポイントを一つでも絞って場所を知ってもらうアピールをしてはどうでしょうか。いいものがここにはいっぱいあるんだということを発信していくことで、自然にさぬき市に来たくなる人や住む人が増えていくような気がします。</p>
座長	<p>資料の中で①②に該当するものは、抜本的に見直すようなアプローチを考えてみる必要があるかもしれませんね。</p>
委員	<p>先日、四国新聞の移動編集局の記事を読みましたが、上がり3カ寺、大串半島、津田の松原の話があったと思います。でも、大串って、そこに行って休めるところがないんです。お茶を飲むところもない。そんな一息つけるような場所を作って、ほっと一息つけるようにすれば立ち寄る人も増えるのではないのでしょうか。</p> <p>今、小田地区で、婦人会が、お年寄りが集まれる憩いの場を作っていたと思います。あれは成功だと思います。大串でも鴨庄婦人会が取り組んでいたと思いますが、今はなくなっていると聞いています。だから、大串に行っても、お茶を飲んで休むところがない。もったいないと思います。</p>
委員	<p>市役所の職員が、みんなでさぬき市をまわってSNSで発信したらどうでしょうか。個別の話というよりは、それぞれがもう一回、アプローチであるとか、施策のありようを検証してはどうでしょうか。転入もあるけど転出もある。転出はどうやって止めるべきなのか、今まで転入ばかりに目を向けていたが、転出に歯止めをかけるにはどうしたらいいのか。その政策自体の目標は維持しつつ、しかし、中間的に、政策自体の方向転換も検討すべき時期ではないのかな、という気がしますね。</p>
委員	<p>感想になりますが、(さぬき市は)アピールが下手だと思います。あと、連携が不十分。もう1つは、例えば農産物の販売額とかのKPIに関して、内訳とかをもう少し突っ込んで分析するといいのではないかと思います。あと、空き家についてですが、そもそも、空き家は、どの辺りにどういうポテンシャルの空き家があるのかを知るために、もう少し分析するとか、解析的な活動もあったほうが良いように思います。</p>

委員	<p>私が読んだ新聞に地方創生のすすめという記事があって、過疎化が進んでいるときこそ耕作放棄地をどうにか利用できないか、という風に書いていました。農業をしようと思っても休耕田をどうやって使えばいいか、相続の手続きが止まっていて、所有者がわからない田んぼも増えているのが現状です。悩ましい問題です。</p>
座長	<p>いろいろなご意見をありがとうございました。</p> <p>関係部局ヒアリングですが、日程は資料4のとおりですが、先ほどの意見の中でも、これを聞いておきたいとか、見直しに関する提案もあったと思いますので、参加できる方は無理のない範囲でヒアリングにご参加ください。会場には、今年も乗り合わせていきますか？</p> <p>&lt;意見交換&gt;</p>
座長	<p>各自で行くほうがいい方ばかりなので、現地集合・現地解散をお願いします。あと最後に、事務局からの事務連絡はありますか。</p>
事務局	<p>&lt;8月5日 元気づくり懇談会へのお誘い&gt; &lt;提言書作成に向けた意見提出について&gt;</p>
座長	<p>私たちの提案も踏まえて開催することになったイベントですので、ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。</p> <p>あと、提言書作成に関する意見提出は必要だと思いますので、事務局は、委員の皆さんに詳細の案内をお願いします。委員の皆さんは、お手数ですがご協力ください。以上で、第2回目の有識者会議を終わります。ありがとうございました。</p>

< 閉 会 > ( 15 : 20 )